

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100406		
法人名	社会福祉法人 朋友会		
事業所名	グループホームたけべ 1F		
所在地	岡山県岡山市北区建部町建部上557-2		
自己評価作成日	令和 5 年 2 月 20 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

天然温泉のお湯で日々の入浴をして頂き、敷地内の別建物には旭川を眺めながら入れる足湯がある。季節に合わせたイベントや施設内の装飾を行い、利用者様に四季を感じて頂けるように心がけている。利用者様に楽しんで生活して頂ける様、毎日様々なレクリエーションを行っている。利用者間の関係作りも大切にしており、初めての利用者さんでも自然と利用者間で打ち解ける様に配慮し、ホームで生活する「家族」としての関係を築いて頂ける様に努力している。また、酒・煙草等の嗜好品も家庭との延長と捉え、日課の中に組み込んでいる。ご家族様が気兼ねなく面会に来て頂けるように、面会時は近況を報告したり毎月広報紙を発行して日常のご様子をお伝えしている。電話などでの連絡の際には行事の案内などを行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390100406-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山県岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 3 月 15 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

天然温泉や山、川が一望できる自然と一体となった施設では、職員や利用者が満足できる様々な取り組みを行っている。春には、ひな祭り、花見、エンドウ豆の収穫。夏には、紫蘇ジュース作り、花火大会や施設内で夏祭りを開催した。秋には、併設する施設合同での文化祭にて作品展示を行い、ミニ運動会も開催できた。冬には、ハンドベルの演奏会、本物の雪を使って雪だるまを作成し、年間行事に合わせて、四季折々の祭事を行っている。日常においては、天然温泉で入浴や足湯をすることで、心身ともにリラックスした日々が送れている。さらに看取りでは、コロナ禍であっても医療連携の基、家族に最期まで付き添って頂き、「家族や本人が希望する終の棲家」の要望を叶えることができた。各ユニットの管理者の連携も取れていて、職員の風通しも良く、何でも話せる関係ができています。それは評価員に対して、明るく接する職員からも窺えた。「ライフ・ワーク・バランス」の実現ができていながらも、有給休暇・育児休暇が取得しやすく、希望休も取りやすい環境となっているからである。職員たちの声掛けや共に行う努力によって、かつて座ることが困難で食事途中から介助が必要な利用者が、リビングでは職員とのハーモニカに合わせて、キーボードで「手のひらを太陽に」を見事に演奏していた。保母であった頃を回想し、生き生きとした表情をそこにいる方たちに勇気を与えてくれていた。そんな元気なシーンで自然と見ることができたのも、利用者に寄り添う職員の心証が地道に輝いていた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念、事業所目標を掲示し、各理念、目標に合ったケアを実施、困難事例の際には理念に振り返っている。	理念は、各ユニットの事務所と前回の評価より玄関にも掲示した。朝の申し送り時に、唱和することで浸透している。管理者は、「介護は楽しきましょう」をモットーに日々のケアに臨んでいる。新入職者には、目線を合わせて、ミラーリングをすることで理念を理解しやすくしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を実施し施設の取り組み等を発信するとともに地域の情報を吸収。一部ではあるが地域行事への参加を行っている。	町内会には加入していて、地域清掃にも参加している。地域を散歩をする時に、すれ違った方と挨拶を交わす関係ができている。包括会議には、併設する各部署の代表者が参加することで、情報共有をしている。	コロナ終焉に向けて、地域との関りを深めるために、今から準備をしてみたいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様、地域の方からの相談があればお聞きし、運営推進会議で上がった認知症に対する対応方法の相談などに助言を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で上がった提案や行事に関する情報をできる限り取り入れ、日常のサービスに活かしている。	地域包括、建部地区長、社協の職員、児童福祉員、元民生委員、施設長、特養の職員、両ユニットの管理者が参加している。入居者状況、行事報告・計画、身体拘束廃止、サービスの質の向上、コロナについての報告を行った。社協と区長へは直接手渡しで、その他は郵送し、意見を聴取している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括連携会議に参加し、運営推進会議でも地域包括支援センターの職員より情報を取り入れている。	両ユニットの管理者が窓口となっていて、郵送でのやり取りが多い。研修案内やコロナの情報を頂くことが多く、マスクやパルスオキシメーターを頂いたこともある。事故報告書の記入の仕方について確認したら、親切・丁寧に教えて頂け、役立った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修の実施、また身体拘束に結びつく可能性があるBPSDを議題にしての会議、取り組みを毎月実施している。	身体拘束委員会にて、取り組みとBPSDの対策について話し合った。年2回研修を実施し、Youtubeの動画視聴の研修やスピーチロックについても取り上げた。個人で感想を書くことで気づきが生まれ、集約することでフィードバックができている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な施設内研修を行い、外部研修にも積極的に受講し学んだことを持ち帰り他職員に伝達している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方もおられるので少しずつ制度の理解ができています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はお話しのしやすい環境、雰囲気作りを心がけ、ゆっくりと一つずつご納得して頂けるよう説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご様子の変化などがあれば随時電話での連絡を行っている。要望などは直接職員に伝えて頂くか意見箱に投書頂いている。	コロナの状況が落ち着いたこともあり、対面での面会が可能となった。利用者の様子を定期的に電話で伝え、その際に意見を聴取している。毎月、家族に手紙を送り、担当者・看護師・管理者のコメントが家族の安心に繋がっている。定期的に行う「たけべ通信」も好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見の交換を行い、普段の業務中でも意見は随時交わし働きやすい環境を目指している。	年1回、両ユニットの管理者が立ち合いの基、面談を実施し、個人の業務についての振り返りの場を設けている。職員間の仲も良く、何でも話せる関係ができていて、日常会話の中でも意見が飛び交っている。ケアに関することはカンファレンス、その他は申し送りノートで共有している。職員の有給取得や希望休の反映もできている。	意見箱を使って、意見を聴取できるように工夫をしてみたいかがでしょうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人材サポート会議を開催し、常にサポート会議メンバーが職員の悩み等を聞き働きやすい環境を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修に外部の講師を招き研修を行うほか、施設外の研修に積極的な参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括連携会議に参加したり、研修などで知り合った他施設の職員との交流をしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークは本人と接する最初の段階なので本人の表情、しぐさに重点を置き話やすい雰囲気心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設で生活することについての不安を取り除けるように状況報告や広報紙での報告を行っている。急な依頼などにもできる限り対応できる様に心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームで可能なケアの内容を伝え、対応が困難な場合は他の事業所やサービスを紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者同士がより良い関係を保てるように職員でフォローを行い、積極的に残存機能を使用した生活ができるように支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	基本的な対応は職員が行っているが、ご家族様にも行事の参加や一緒に外出の声掛けを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を20時としているが状況によってご家族様の希望にそえる様になっている。	対面での面会が可能になり、利用者・家族ともに喜ばれた。毎日の献立を確認したり、日めくりカレンダーをめくるのが日課になっている方もいる。リビングの席が馴染みとなり、隣同士で会話が盛り上がることもしばしばある。職員の出勤を気にかけて「明日来るの?」や「明日は晴れだよ。」と教えてくれるくらい今ではすっかり馴染みの関係となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席順や利用者同士の性格を考慮しバランスのとれた席の配置を心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も可能な限りの相談援助を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、しぐさ、表情をもとにケアを実施し、困難な場合は理念に戻って実施している。	入居時に生活歴を把握している。面会時には、忘れないように手紙に書くことで意思疎通を図っている。言葉をあまり発しない方へは、表情、目線、動作などから汲み取り、職員が寄り添うことで、意見を言いやすくしている。運動がしたい方へは、リビングを歩くことでフラストレーションが溜まらないようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートでの情報の他に、可能な限りご親族の方から情報を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活パターンを把握し、表情の観察を行いその時々にあった対応を実践できることを目標としている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回のモニタリングを行い、本人、家族の希望を最大限取り入れている。困難な場合はご家族様と話し合いの場を設けるようにしている。	入居時に暫定プランを立て、1ヶ月後に本プランに切り替える。何もなければ半年毎に見直しをしている。目標は長期を6ヶ月、短期を3ヶ月で見直している。3ヶ月に1回モニタリングを行っている。担当制を敷いているが、気になった職員が発言することでチームケアが深まっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行動、言葉を詳細に記録し、第3者が見ても分かるように記録の書き方に注意している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の急な依頼にも柔軟に対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出張健康体操等を行い、地域との関係を保てるように支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回の訪問診療でご本人様が日々の生活で訴えられていることを代弁、ご家族様のご意向などを主治医に伝えている。	かかりつけ医は選べるが、協力医に全員が転医されている。往診が月2回で、ドクターとの関係も良好である。他科受診は、基本職員が連れて行くが、家族が連れて行く場合もある。歯科は、受診を基本としているが、必要に応じて訪問があり、入れ歯の調整してくれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を常勤配置しているので、都度状態の報告・対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報を速やかに伝達し、入院中の状態についても電話や訪問し把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについて再度主治医を交えて説明、確認を行い、積極的にご家族様に訪問して頂きケアを行う一員としての役割を担って頂いている。	看取りは実施していて、今年度数名の方の看取りを行った。入居時に、看取り介護指針にて説明をし、同意書を交わしている。再度、看取り期に差し掛かった場合には、家族や本人の希望を聞き取っている。家族の希望に沿って、併設する特養に移られる方もいる。年1回、施設内で看取り研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に備えAEDや心肺蘇生の研修を行っている、急変時の対応マニュアルも手の届くところに掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練、また災害時に職員と町内の方が協力し合えるように緊急連絡網想定しての訓練マニュアル、非常時の防災食を用意している。	コロナの状況をみて、利用者参加型で行った。年2回昼夜火災想定で実施。年6回程、避難訓練会議を開催することで、準備物や連絡網の確認をすることができた。連絡網は各ユニットの事務所、避難経路はリビングに掲示している。備蓄は、水、パン、レトルトカレー、肉じゃが、米、お粥を1階の倉庫に3日分程を保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人に合った話し方、声のかけ方を意識し、ホームで生活する一員として個人を大切にするように心がけている。	呼称は苗字に「さん」付けだが、同性の場合には、下の名前に「さん」付けで呼んでいる。反応がいい場合には、下の名前に「さん」付けで呼ぶこともある。前回の評価結果を受けて、脱衣所の棚にカーテンを敷くことでプライバシーが守られていた。利用者の聞こえやすい耳の方で、優しく語りかけるように話すように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さなことでも本人に決定を促している、オープン・クローズドクエスチョンを使い分けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースを可能な限り乱さない生活リズムを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や散髪に関しては本人で決めていただき、本人から希望があればアドバイスを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き等を行って頂いている。献立の説明や楽しく会話しながら食事をしている。	併設する厨房から3食+おやつが届く。おやつ作り際には、厨房から食材が届き、スイートポテト、お好み焼き、芋もちやショートケーキを作った。アクリル板を設置したことで、感染症対策もできている。天ぶらの盛り合わせを美味しく食べる利用者の様子が窺え、「美味しいです。」の一言が聞けた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と相談し、その方に合った食事形態、栄養を考えている。常に嚥下や摂取の状況を確認し把握するように心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアをして頂けるように促し、希望に合わせて歯科の受診を行っている。お一人お一人に合わせた口腔ケアの方法を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄のリズムを把握し、声掛けや誘導を行っている。おしめから布パンツに変更できるようにしている。	トイレは、各ユニット4ヶ所。排泄失敗時には、耳元で優しくさり気なく囁くことで自尊心を傷つけないようにしている。排泄チェック表を活用し、トイレ誘導のタイミングを把握したことで、パットのサイズが小さくなり、失禁が減った。布パンツで過ごされている方も数名いる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便ができるように、食物繊維や乳製品を摂取して頂き排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴の曜日は決めさせて頂いているが、その日の本人の気分や状態に合わせて入浴日を変更して対応している。	週2回の入浴で天然ラドン温泉となっている。特徴は温度が適温で、玄関に成分表が貼ってある。効能は、自律神経、慢性疲労、腰痛、肩こり、神経痛に効く。拒否される方へは、時間や職員を変えて対応することでスムーズな誘導ができています。季節湯として、ゆず湯の提供もしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態や仕草を観察して臥床を声掛けしたり、お一人お一人の生活リズムに合わせた対応を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬がすぐに分かるように個別にファイルしている。服薬前に誤薬防止のため職員2名で薬が本人様のものであるか確認し、本人に合った服薬の方法を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	在宅生活で行ってきたこと(酒・煙草等の嗜好品)が引き続き実施できる環境作りを心掛け、洗濯たみなどの役割を持って生活して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事での外出以外に、普段の生活の中で積極的に外出を取り入れ、希望に応じて自宅に帰ったり柔軟な対応を行っている。また嗜好品の買い物なども希望時に行っている。	たけべの森へ桜を見に行ったり、牧場で馬を見たりしている。近隣の散歩をして足湯を楽しんだり、広い施設内を一周することもある。できる方には、朝昼晩エアロバイクや足漕ぎをして頂いている。節分には、鬼の的に豆の代わりにボールを投げたり、秋には各ユニットでミニ運動会を開催した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で管理可能な利用者様に対しては本人様で管理して頂き、買い物などの際には見守りにて本人で支払いを行えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をかけたり、居室内に電話を設置されている方は自由にご家族様、ご友人と連絡を取られている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じれるように施設内の装飾など季節に合ったものを設置している、装飾品を利用者様と一緒に作成するなどしている。	四季を感じて頂くために貼り絵を飾っていて、3月はひなまつり、5月はこいのぼりの予定。リビングでは、童謡を読んだり、職員のハーモニカに合わせて、キーボードで「手のひらを太陽に」を上手に演奏していた。飾っている生花を見ることが、利用者の癒しとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配慮やテーブル配置を都度見直して、その時々合った配置をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人様のなじみのある物を持ってきて頂けるようご家族様に依頼している。持ち込みに関しては基本的に制限を行っていない。	1Fの窓からは、桜や梅の花が見え、2Fの窓からは、広大な山々が押し迫り、川のせせらぎの音が幸せを奏でている。お仏壇や孫からの絵や手紙が大切に飾ってあり、猫好きな方は、猫グッズに囲まれることで自分らしい居室となっていた。居室では、お昼寝休憩をしたり、TVを観たりして、ゆったりもったりと過ごす方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様が使いやすい、動きやすい環境を提供し目印などを設置しご本人様がわかるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100406		
法人名	社会福祉法人 朋友会		
事業所名	グループホームたけべ 2F		
所在地	岡山県岡山市北区建部町建部上557-2		
自己評価作成日	令和 5 年 2 月 20 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

天然温泉のお湯で日々の入浴をして頂き、敷地内の別建物には旭川を眺めながら入れる足湯がある。季節に合わせたイベントや施設内の装飾を行い、利用者様に四季を感じて頂けるように心がけている。利用者様に楽しんで生活して頂ける様、毎日様々なレクリエーションを行っている。利用者間の関係作りも大切にしており、初めての利用者さんでも自然と利用者間で打ち解ける様に配慮し、ホームで生活する「家族」としての関係を築いて頂ける様に努力している。また、酒・煙草等の嗜好品も家庭との延長と捉え、日課の中に組み込んでいる。ご家族様が気兼ねなく面会に来て頂けるように、面会時は近況を報告したり毎月広報紙を発行して日常のご様子をお伝えしている。電話などでの連絡の際には行事の案内などを行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390100406-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山県岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 3 月 15 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

天然温泉や山、川が一望できる自然と一体となった施設では、職員や利用者が満足できる様々な取り組みを行っている。春には、ひな祭り、花見、エンドウ豆の収穫。夏には、紫蘇ジュース作り、花火大会や施設内で夏祭りを開催した。秋には、併設する施設合同での文化祭にて作品展示を行い、ミニ運動会も開催できた。冬には、ハンドベルの演奏会、本物の雪を使って雪だるまを作成し、年間行事に合わせて、四季折々の祭事を行っている。日常においては、天然温泉で入浴や足湯をすることで、心身ともにリラックスした日々が送れている。さらに看取りでは、コロナ禍であっても医療連携の基、家族に最期まで付き添って頂き、「家族や本人が希望する終の棲家」の要望を叶えることができた。各ユニットの管理者の連携も取れていて、職員の風通しも良く、何でも話せる関係ができています。それは評価員に対して、明るく接する職員からも窺えた。「ライフ・ワーク・バランス」の実現ができていながらも、有給休暇・育児休暇が取得しやすく、希望休も取りやすい環境となっているからである。職員たちの声掛けや共に行う努力によって、かつて座ることが困難で食事途中から介助が必要な利用者が、リビングでは職員の一ハモニカに合わせて、キーボードで「手のひらを太陽に」を見事に演奏していた。保母であった頃を回想し、生き生きとした表情をそこにいる方たちに勇気を与えてくれていた。そんな元気なシーンで自然と見ることができたのも、利用者に寄り添う職員の心証が地道に輝いていた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念、事業所目標を掲示し、各理念、目標に合ったケアを実施、困難事例の際には理念に振り返っている。	理念は、各ユニットの事務所と前回の評価より玄関にも掲示した。朝の申し送り時に、唱和することで浸透している。管理者は、「介護は楽しきましょう」をモットーに日々のケアに臨んでいる。新入職者には、目線を合わせて、ミラーリングをすることで理念を理解しやすくしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を実施し施設の取り組み等を発信するとともに地域の情報を吸収。一部ではあるが地域行事への参加を行っている。	町内会には加入していて、地域清掃にも参加している。地域を散歩をする時に、すれ違った方と挨拶を交わす関係ができています。包括会議には、併設する各部署の代表者が参加することで、情報共有をしている。	コロナ終焉に向けて、地域との関りを深めるために、今から準備をしてみたいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様、地域の方からの相談があればお聞きし、運営推進会議で上がった認知症に対する対応方法の相談などに助言を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で上がった提案や行事に関する情報をできる限り取り入れ、日常のサービスに活かしている。	地域包括、建部地区長、社協の職員、児童福祉員、元民生委員、施設長、特養の職員、両ユニットの管理者が参加している。入居者状況、行事報告・計画、身体拘束廃止、サービスの質の向上、コロナについての報告を行った。社協と区長へは直接手渡しで、その他は郵送し、意見を聴取している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括連携会議に参加し、運営推進会議でも地域包括支援センターの職員より情報を取り入れている。	両ユニットの管理者が窓口となっていて、郵送でのやり取りが多い。研修案内やコロナの情報を頂くことが多く、マスクやパルスオキシメーターを頂いたこともある。事故報告書の記入の仕方について確認したら、親切・丁寧に教えて頂け、役立った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修の実施、また身体拘束に結びつく可能性があるBPSDを議題にしての会議、取り組みを毎月実施している。	身体拘束委員会にて、取り組みとBPSDの対策について話し合った。年2回研修を実施し、Youtubeの動画視聴の研修やスピーチロックについても取り上げた。個人で感想を書くことで気づきが生まれ、集約することでフィードバックができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な施設内研修を行い、外部研修にも積極的に受講し学んだことを持ち帰り他職員に伝達している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方もおられるので少しずつ制度の理解ができています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はお話しのしやすい環境、雰囲気作りを心がけ、ゆっくりと一つずつご納得して頂けるよう説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご様子の変化などがあれば随時電話での連絡を行っている。要望などは直接職員に伝えて頂くか意見箱に投書頂いている。	コロナの状況が落ち着いたこともあり、対面での面会が可能となった。利用者の様子を定期的に電話で伝え、その際に意見を聴取している。毎月、家族に手紙を送り、担当者・看護師・管理者のコメントが家族の安心に繋がっている。定期的に行う「たけべ通信」も好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見の交換を行い、普段の業務中でも意見は随時交わし働きやすい環境を目指している。	年1回、両ユニットの管理者が立ち合いの基、面談を実施し、個人の業務についての振り返りの場を設けている。職員間の仲も良く、何でも話せる関係ができていて、日常会話の中でも意見が飛び交っている。ケアに関することはカンファレンス、その他は申し送りノートで共有している。職員の有給取得や希望休の反映もできている。	意見箱を使って、意見を聴取できるように工夫をしてみたいかがでしょうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人材サポート会議を開催し、常にサポート会議メンバーが職員の悩み等を聞き働きやすい環境を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修に外部の講師を招き研修を行うほか、施設外の研修に積極的な参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括連携会議に参加したり、研修などで知り合った他施設の職員との交流をしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークは本人と接する最初の段階なので本人の表情、しぐさに重点を置き話やすい雰囲気心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設で生活することについての不安を取り除けるように状況報告や広報紙での報告を行っている。急な依頼などにもできる限り対応できる様に心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームで可能なケアの内容を伝え、対応が困難な場合は他の事業所やサービスを紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者同士がより良い関係を保てるように職員でフォローを行い、積極的に残存機能を使用した生活ができるように支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	基本的な対応は職員が行っているが、ご家族様にも行事の参加や一緒に外出の声掛けを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を20時としているが状況によってご家族様の希望にそえる様にしている。	対面での面会が可能になり、利用者・家族ともに喜ばれた。毎日の献立を確認したり、日めくりカレンダーをめくるのが日課になっている方もいる。リビングの席が馴染みとなり、隣同士で会話が盛り上がることもしばしばある。職員の出勤を気にかけて「明日来るの？」や「明日は晴れだよ。」と教えてくれるくらい今ではすっかり馴染みの関係となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席順や利用者同士の性格を考慮しバランスのとれた席の配置を心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も可能な限りの相談援助を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、しぐさ、表情をもとにケアを実施し、困難な場合は理念に戻って実施している。	入居時に生活歴を把握している。面会時には、忘れないように手紙に書くことで意思疎通を図っている。言葉をあまり発しない方へは、表情、目線、動作などから汲み取り、職員が寄り添うことで、意見を言いやすくしている。運動がしたい方へは、リビングを歩くことでフラストレーションが溜まらないようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートでの情報の他に、可能な限りご親族の方から情報を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活パターンを把握し、表情の観察を行いその時々にあった対応を実践できることを目標としている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回のモニタリングを行い、本人、家族の希望を最大限取り入れている。困難な場合はご家族様と話し合いの場を設けるようにしている。	入居時に暫定プランを立て、1ヶ月後に本プランに切り替える。何もなければ半年毎に見直しをしている。目標は長期を6ヶ月、短期を3ヶ月で見直している。3ヶ月に1回モニタリングを行っている。担当制を敷いているが、気になった職員が発言することでチームケアが深まっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行動、言葉を詳細に記録し、第3者が見ても分かるように記録の書き方に注意している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の急な依頼にも柔軟に対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出張健康体操等を行い、地域との関係を保てるように支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回の訪問診療でご本人様が日々の生活で訴えられていることを代弁、ご家族様のご意向などを主治医に伝えている。	かかりつけ医は選べるが、協力医に全員が転医されている。往診が月2回で、ドクターとの関係も良好である。他科受診は、基本職員が連れて行くが、家族が連れて行く場合もある。歯科は、受診を基本としているが、必要に応じて訪問があり、入れ歯の調整してくれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を常勤配置しているので、都度状態の報告・対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報を速やかに伝達し、入院中の状態についても電話や訪問し把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについて再度主治医を交えて説明、確認を行い、積極的にご家族様に訪問して頂きケアを行う一員としての役割を担って頂いている。	看取りは実施していて、今年度数名の方の看取りを行った。入居時に、看取り介護指針にて説明をし、同意書を交わしている。再度、看取り期に差し掛かった場合には、家族や本人の希望を聞き取っている。家族の希望に沿って、併設する特養に移られる方もいる。年1回、施設内で看取り研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に備えAEDや心肺蘇生の研修を行っている、急変時の対応マニュアルも手の届くところに掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練、また災害時に職員と町内の方が協力し合えるように緊急連絡網想定しての訓練マニュアル、非常時の防災食を用意している。	コロナの状況をみて、利用者参加型で行った。年2回昼夜火災想定で実施。年6回程、避難訓練会議を開催することで、準備物や連絡網の確認をすることができた。連絡網は各ユニットの事務所、避難経路はリビングに掲示している。備蓄は、水、パン、レトルトカレー、肉じゃが、米、お粥を1階の倉庫に3日分程を保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人に合った話し方、声のかけ方を意識し、ホームで生活する一員として個人を大切にするように心がけている。	呼称は苗字に「さん」付けだが、同性の場合には、下の名前に「さん」付けで呼んでいる。反応がいい場合には、下の名前に「さん」付けで呼ぶこともある。前回の評価結果を受けて、脱衣所の棚にカーテンを敷くことでプライバシーが守られていた。利用者の聞こえやすい耳の方で、優しく語りかけるように話すように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さなことでも本人に決定を促している、オープン・クローズドクエスチョンを使い分けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースを可能な限り乱さない生活リズムを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や散髪に関しては本人で決めていただき、本人から希望があればアドバイスをを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き等を行って頂いている。献立の説明や楽しく会話しながら食事をしている。	併設する厨房から3食+おやつが届く。おやつ作り際には、厨房から食材が届き、スイートポテト、お好み焼き、芋もちやショートケーキを作った。アクリル板を設置したことで、感染症対策もできている。天ぶらの盛り合わせを美味しく食べる利用者の様子が窺え、「美味しいです。」の一言が聞けた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と相談し、その方に合った食事形態、栄養を考えている。常に嚥下や摂取の状況を確認し把握するように心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアをして頂けるように促し、希望に合わせて歯科の受診を行っている。お一人お一人に合わせた口腔ケアの方法を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄のリズムを把握し、声掛けや誘導を行っている。おしめから布パンツに変更できるようにしている。	トイレは、各ユニット4ヶ所。排泄失敗時には、耳元で優しくさり気なく囁くことで自尊心を傷つけないようにしている。排泄チェック表を活用し、トイレ誘導のタイミングを把握したことで、パットのサイズが小さくなり、失禁が減った。布パンツで過ごされている方も数名いる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便ができるように、食物繊維や乳製品を摂取して頂き排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴の曜日は決めさせて頂いているが、その日の本人の気分や状態に合わせて入浴日を変更して対応している。	週2回の入浴で天然ラドン温泉となっている。特徴は温度が適温で、玄関に成分表が貼ってある。効能は、自律神経、慢性疲労、腰痛、肩こり、神経痛に効く。拒否される方へは、時間や職員を変えて対応することでスムーズな誘導ができています。季節湯として、ゆず湯の提供もしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態や仕草を観察して臥床を声掛けしたり、お一人お一人の生活リズムに合わせた対応を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬がすぐに分かるように個別にファイルしている。服薬前に誤薬防止のため職員2名で薬が本人様のものであるか確認し、本人に合った服薬の方法を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	在宅生活で行ってきたこと(酒・煙草等の嗜好品)が引き続き実施できる環境作りを心掛け、洗濯たみなどの役割を持って生活して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事での外出以外に、普段の生活の中で積極的に外出を取り入れ、希望に応じて自宅に帰ったり柔軟な対応を行っている。また嗜好品の買い物なども希望時に行っている。	たけべの森へ桜を見に行ったり、牧場で馬を見たりしている。近隣の散歩をして足湯を楽しんだり、広い施設内を一周することもある。できる方には、朝昼晩エアロバイクや足漕ぎをして頂いている。節分には、鬼の的に豆の代わりにボールを投げたり、秋には各ユニットでミニ運動会を開催した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で管理可能な利用者様に対しては本人様で管理して頂き、買い物などの際には見守りにて本人で支払いを行えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をかけたり、居室内に電話を設置されている方は自由にご家族様、ご友人と連絡を取られている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じれるように施設内の装飾など季節に合ったものを設置している、装飾品を利用者様と一緒に作成するなどしている。	四季を感じて頂くために貼り絵を飾っていて、3月はひなまつり、5月はこいのぼりの予定。リビングでは、童謡を読んだり、職員のハーモニカに合わせて、キーボードで「手のひらを太陽に」を上手に演奏していた。飾っている生花を見ることが、利用者の癒しとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配慮やテーブル配置を都度見直して、その時々合った配置をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人様のなじみのある物を持ってきて頂けるようご家族様に依頼している。持ち込みに関しては基本的に制限を行っていない。	1Fの窓からは、桜や梅の花が見え、2Fの窓からは、広大な山々が押し迫り、川のせせらぎの音が幸せを奏でている。お仏壇や孫からの絵や手紙が大切に飾ってあり、猫好きな方は、猫グッズに囲まれることで自分らしい居室となっていた。居室では、お昼寝休憩をしたり、TVを観たりして、ゆったりもったりと過ごす方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様が使いやすい、動きやすい環境を提供し目印などを設置しご本人様がわかるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない